

## 「仁保」つながりで交流

山口市



広島市南区

### 歴史愛好家6人が訪問



山口市仁保地区にある三浦元忠の墓地を訪れた仁保郷土史会や地元自治会の住民たち

山口市仁保地区を、広島市南区仁保地区の歴史愛好家たちでつくる仁保郷土史会の会員6人が訪れ、地元の仁保自治会の住

民と初めて交流した。同じ地名を縁にして新たな結び付きを深めたいとしている。郷土史会などによると、両地

区は戦国末期に毛利氏の武将三浦元忠の領地だったとされる共通点がある。郷土史会がことし2月、自治会に連絡し、初めての訪問につながった。

自治会の8人が、マイクロバスで三浦の墓地や小説家嘉村礒多（1897～1933年）の生家、地区内の神社、寺などを案内して回った。自治会の内田利夫事務局長（65）は「両地区は都会と田舎、海と山など対照的。交流が続けられたら」と喜んだ。次は自治会が広島市を訪れるという。

郷土史会の灰田靖睦のぶみち会長（71）は「歴史だけでなく、料理や音楽の団体も巻き込んで交流を深めたい」と話していた。（宮野史康）